

文部科学大臣杯・国土交通大臣杯
国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会 2023 実施報告書

実行委員長 佐藤 公俊
(一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟理事)

はじめに

国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会は、全国の連盟登録ジュニアヨットクラブと海外チームのジュニアセーラー達が一堂に会して、日頃鍛えた帆走技術とシーマンシップを競い合いその向上を図るとともに、海外チームとの交流により国内ジュニアセーラー達が国際感覚を磨き、その視野をひろげ、また地元地域の子供たちとの触れ合いを通して健全な水辺スポーツとしてのヨットを啓蒙普及させて、生涯スポーツとしてのヨットの発展に貢献することを期して当連盟が主催して毎年実施しています。

本競技会は文部科学大臣杯、国土交通大臣杯が授与される国内唯一の大臣杯タイトルレースです。また一般社団法人日本ジュニアヨットクラブ連盟（以下 JJYU）の名称、設立趣旨にもありますようにクラブとして参加頂いて、クラブ対抗レースの上位クラブには連盟の主催する海外セーリング研修参加資格を授与するという会長特別賞を設けており、ジュニアヨットの普及とクラブ同士の親睦、そして国際交流を目的に開催する競技会です。

本年は海外から招待のオーストラリア・ニュージーランド 2 チームと国内は関東・関西・四国から 6 クラブが参加して、7 月 21 日から 23 日まで和歌山セーリングセンターにて競技会を開催しました。海外 2 チーム・国内 6 クラブの選手 68 名、指導者・父兄 92 名を迎え、運営役員 50 名を合わせて総勢 210 名の規模となりました。

競技会参加者全員による携帯電話ラインオープンチャットを使用して、競技会期間中の連絡、レース結果報告を行うことによりコロナウィルス感染対策を実施しました。競技会期間中は感染発症・事故等もなく無事競技会を終了する事ができました。

練習会

競技会に備え 7 月 21 日は練習会としてトライアルレースを実施。役員による運営体制の確認を行い本レースに備えました。風も安定しており、チャーター艇での練習としてもよい機会でのトライアルをおこなう事が出来ました。



和歌山セーリングセンター

開会式

開会式はセーリングセンター2Fの大会議室・テラスにて選手・指導者・父兄・大会役員やご来賓の方々にご参集頂き、予定より少し早目に始めることが出来ました。

和歌山県セーリング連盟専務理事中村和哉様の競技会開会宣言を皮切りに JJYU 石原伸晃競技会会長挨拶と続きました。ご来賓として二名の方々にご挨拶を頂きました。和歌山県教育委員会委員長の宮崎泉様より心からの歓迎のお言葉を頂戴致しました。次に和歌山市市長尾花正啓様より激励の言葉を頂戴致しました。また、参議院議員自由民主党幹事長世耕弘成様と参議院議員鶴保庸介様より祝電も頂きました。

続いて恒例の少年ヨット憲章「山中湖宣言」を石原伸晃会長立会いの下、和歌山ジュニアヨットクラブの4名（井上愛聖、安井迅悟、栗本悠里、工藤千寛さん）の選手たちが力強い言葉で表現してくれました。

開会式終了後に安全講習会、競技運営説明会を行いました。



和歌山県セーリング連盟
専務理事中村和哉様



JJYU 石原伸晃競技会会長



和歌山県教育委員会委員長
宮崎泉様



和歌山市市長尾花正啓様



山中湖宣言



安全講習会



競技運営説明会

国際交流会

国際交流会では参加者が和歌山産食材の食事を楽しみながら、海外チームとの記念品交換、各クラブの紹介などがなごやかに繰り広げられました。今回アトラクション等は無かったですが、タコ焼きや和歌山ローカルのグリーン（抹茶）アイスクリーム等を味わう事が出来て、選手・保護者・父兄・指導者や大会役員同士の交流に特化した楽しい前夜祭となりました。



A 海面のレース状況

A 海面では、OP 級上級者クラスに海外 2 クラブを含む 8 クラブから 41 名の選手が参加、ILCA4 クラスには 3 クラブから 7 名の選手が参加。

初日は前日のプラクティスと同じで気温上昇と共にシーブリーズが入って来るのを少し待ってから出艇。

予想通り風速 10knot のシーブリーズが安定してきた中、第 1 レースは ILCA4 が 10:27 にスタート。引き続き OP が 10:38 にスタート。安定した風向で 3 レースを連続で実施。その後風が少し上がるにつれて左に振れてきたため、マーク設定を変更。選手にとっても昼食用の時間となりました。

休憩時には海外選手がラダーレスで帆走すると日本人選手も真似をするなどの交流があったことは素晴らしかったです。その後、平均 12knot、ブローでは 15knot まで上がる中、2 レース実施出来たため初日は 5 レース実施とかなり充実した日となりました。初日トップに立ったのは、ILCA4 は 5 レースともトップフィニッシュの B&G 高松海洋クラブの川北選手。OP も同じく 5 レースともトップフィニッシュだった江東区立小中学校セーリング部の上條選手。

2 日目も前日同様シーブリーズを待っての出艇。10knot 強の安定した中で 10:19 に ILCA4 がスタート。引き続き OP もスタートするがゼネリコを繰り返し、黒色旗でのスタート。引き続き最終レースとなる第 7 レースも実施し、予定したレースすべてを完了。結果は、ILCA4 は全レーストップフィニッシュを決めた川北選手が完全優勝。OP 級はカットレースを除く 6 レースでトップフィニッシュを決めた上條選手が優勝。

順風下での 7 レース実施は選手にとって体力的にも集中力的にもかなり厳しかったとは思いますが、一部の選手のスタート技術が非常に高かったことの好影響でレース数を重ねるたびに他の選手もスタート時に積極的になることが見られたことは本当に素晴らしいことでした。



A 海面本部艇



スタート (OP 級上級者)



上マークにアタック (OP 級上級者)



下マーク回航 (OP 級上級者)



フィニッシュへのスパート (OP 級上級者)



スタート（ILCA4）



スタート直後（ILCA4）



フィニッシュ前（ILCA4）

B 海面のレース状況

和歌山セーリングセンターハーバーから北西、比較的近い和歌浦湾 B 海面では OP 級初級者のレースが行われました。6 クラブ 20 名（男 14 名、女 6 名）の参加がありました。7 月 22 日（土）、7 月 23 日（日）ともに出艇までの風待ちはあったものの、洋上は初級者にとっても気持ちよく帆走できる順風に恵まれました。風向も安定しており、レースを行うたびに選手のセーリングの精度が良くなっていました。好天下でしたので、熱中症等の体調管理には十分に配慮をしながら初日は 5 レース、2 日目は 2 レースを予定どおり行うことができました。またマーク 1 のタイムリミットを 10 分としていましたが、すべてのレースにおいて問題なくクリアし、目標時間に余裕をもってフィニッシュをすることができていましたので、2 日目は十分にレースを楽しめるようになりコースを広く取りました。スタートやマーク回航だけでなくセーリングそのもので順位が入れ替わり、白熱したレース展開となっていました。フィニッシュする選手の笑顔からは、広いコースを帆走しきる楽しさと達成感を感じられました。



B 海面本部艇



上マーク回航（OP 級初級者）



サイドマーク手前（OP 級初級者）



フィニッシュ（OP 級初級者）

海外招待チームの状況

7月21日練習会前に海外チームへチャーター艇を提供。コーチ・父兄とテクニカル・チャーター艇委員がチャーター艇備品をチェックして、各選手はそれぞれ艀装を開始しました。

7月22、23日のレースではA海面本部艇に乗船した海外チームコーチ・父兄が海外選手のセーリングを観戦、当競技会を非常に楽しんでいました。

医療救護部 総括

競技会期間中の気温は35℃を超えていましたが、熱中症になった選手もなく安全に競技会を開催できたと思います。

閉会式

競技会2日間ともに良い風に恵まれ、計7レースA・B海面共に出来ました。全てがスムーズに進み、艇の片づけや帰り支度をしながらも予定より1時間以上も早く2時45分から閉会式を開始することが出来ました。

はじめに伊藤雅宣競技会副会長より特別表彰の小澤吉太郎特別賞の発表でしたが、本年度は残念ながら該当者がいませんでした。その代わりではないですが、ハーバーの清掃に努めたNZチームのダリア・ファイフェさんとフィリップ・ウィルシャーさんに特別表彰という事で賞品を授与させて頂きました。引続き団体表彰（国内・海外）を行いました。その後小野澤秀典競技会レース委員長による成績発表、高間博之プロテスト委員長よりレース講評を頂きました。

海外チーム指導者代表として海外最高順位のNZチームのジェフ様に競技会の好評価、開催地の和歌山の方々のおもてなしへの御礼とまた来年の出場についてユーモアを交えてご挨拶を頂きました。

最後は塩野崎英二競技会委員長の競技会終了宣言という事でしたが、A海面のスタート時にJJYUの大会としてはあるまじき言動があったという指摘を受け指導者と保護者の方々に状況を説きJJYUのレース運営の落ち度を謝罪、今後のあるべき姿の競技会実施を約束して無事閉会式を終える事が出来ました。



特別表彰のダリア・ファイフェさんとフィリップ・ウィルシャーさん（NZチーム）



国内クラブ対抗レース上位3チーム



団体表彰：海外チーム（ニュージーランド）



OP 級上級者入賞者



OP 級初級者入賞者



ILCA4 入賞者



海外参加選手 OP 級上級者入賞者



高間博之プロテスト委員長よりレース講評



NZ チームのジェフ様ご挨拶



塩野崎英二競技会委員長の競技会終了宣言

主な成績

1.JJYU 特別表彰

①小澤吉太郎特別賞 対象者なし

②団体表彰 国内クラブ対抗レースの上位3クラブに JJYU 主催の海外セーリング研修参加資格を授与し、海外渡航費の一部を援助します。

第1位 B&G 高松海洋クラブ

第2位 江東区立小中学校セーリング部

第3位 和歌山ジュニアヨットクラブ

③団体表彰 クラブ対抗レースで最高順位の海外チーム

ニュージーランドチーム (New Zealand Youth Sailing Team)

2.個人表彰

①OP 級上級者

第1位	上條 正弘	江東区立小中学校セーリング部
第2位	山本 汐穂	B&G 高松海洋クラブ
第3位	三浦 太輝	夢の島ヨットクラブ
第4位	和田 悠生	B&G 高松海洋クラブ
第5位	平澤 海翔	江東区立小中学校セーリング部
第6位	岡本 莉津斗	大阪ジュニアヨットクラブ

②OP 級初級者

第1位	安彦 昇哉	江東区立小中学校セーリング部
第2位	岩崎 楓太	B&G 高松海洋クラブ
第3位	伊藤 照真	江東区立小中学校セーリング部
第4位	城石 朋春	B&G 高松海洋クラブ
第5位	川北 華子	B&G 高松海洋クラブ
第6位	根岸 渚沙	葉山町セーリング協会

③ILCA4

第1位	川北 智大	B&G 高松海洋クラブ
第2位	木下 明砂	大阪ジュニアヨットクラブ
第3位	安井 迅悟	和歌山ジュニアヨットクラブ

3.国際交流個人表彰

①海外参加選手 OP 級上級者

第1位	Orlando Ligovich	Royal Perth Yacht Club
第2位	Philippa Wiltshire	New Zealand Youth Sailing Team
第3位	Amber Hughes	New Zealand Youth Sailing Team

